

公益信託高知市まちづくりファンドニュース

まちファン

15号

2010年 9月 30日



まちづくりは仲間づくり



2009年度、高知市まちづくりファンドは、障害のある子どもたち延べ114人のリハビリ子どもの悩みをそっと電話で受け止めるしみづくり高知城での子どもの忍者修行(!)、大橋通商店街での子どもたち171人の職業体験、聴覚障害の理解者を増やすための講演会、を支援しました。

これらの活動を通して、数えきれないくらい多くの人々がまちづくりに関わりました。

まちづくりに関わると人と人のつながりを実感できます。

楽しいな、苦しいな、悲しいな、嬉しいな、

まちづくりに関われば仲間と、いっしょに感じることができます。

高知にいるならみんな「チーム高知」の仲間です。

まちづくりは仲間づくり

目次

2010年度 公益信託 高知市まちづくりファンド 公開審査会

プレゼンテーション

まちづくりはしめの「一歩」コース	2
まちづくり「一歩前へ」コース	3
まちづくり「大きな一歩」(ノブからハードへ)コース	5
公開審査会を終えて	6

2009年度 公益信託 高知市まちづくりファンド 最終発表会

プレゼンテーション

まちづくりはしめの「一歩」コース	7
まちづくり「一歩前へ」コース	7
最終発表会を終えて	9
運営委員の紹介	9
公益信託 高知市まちづくりファンドとは / 今後の予定	10

上記、公開審査会、最終発表会ともに、アズビルことうち4階にて開催しました。

公益信託 高知市まちづくりファンド 2010年度 公開審査会

2010年7月25日(日)開催の公益信託「高知市まちづくりファンド2010年度 公開審査会」には、応募団体、一般合わせて95名が参加しました。

A まちづくりはじめての「一歩」コース

1 審査



事前の書類審査にて助成団体を選考し、公開審査会の場で発表

2 団体の活動紹介



助成対象となった団体による事業内容の説明

「まちづくりはじめての一歩」コース結果発表(助成先2団体)

グループ名		申請額 (万円)	助成額 (万円)
1	さえんば活性化隊	5	5
2	88 はちはち祭高知実行委員会	5	-
3	Sunday Market Supporters	5	5
助成額合計			10

A まちづくりはじめての「一歩」コース

プレゼンテーション

GROUP 1 さえんば商店街を活性化し、にぎわいのある街作りと商店街の自立を目指す

さえんば活性化隊

大学で商店街を取り扱う授業があり、かつては数万あった全国の商店街が、どんどん減っていることを知った。(代表者の)地元岡山の商店街は、再起不能の状態にまでなってしまった。現在、高知にいるので、地元ではできなかったことを、大学生の立場で「何ができるのか」と考えたときに、菜園場を活性化することが思い当たった。



GROUP 2 幸国はちはち祭り 高知の人間力をつなぐ祭り

88 (はちはち)祭高知実行委員会

増田副運営委員長のコメント ●●●
内容等の問題はない。ただ、活動が今まで行っているということと、今後自力で活動が可能であると判断した。今回は助成することはできなかったが、「まちづくり一歩前へ」コースへ申請したら、より「高知市まちづくり」の原点に戻っていけるのではないだろうか。

GROUP 3 若者による土佐の日曜市の活性化に向けた取り組み

Sunday Market Supporters

日曜市で活動している大学生団体。「日曜市が好き」という気持ちを伝え、表現することを、この活動に取り入れたい。助成金が出ることで、活動できる範囲が広がる。「日曜市が好き」という気持ちだけはこれから先も忘れないように活動していきたい。



助成決定した2団体へ増田副運営委員長のコメント

運営委員会からの願いとして、途中、事情があって内容等が変わる可能性や、メンバーの編成が替わる可能性があるかもしれないが、いかなる理由があろうとも、最後まで行き着いていただきたい。最終発表の段階まで頑張って事業を実施してほしい。

公開審査会の様子



B 「まちづくり一歩前へ」コース

1 プレゼンテーション



各応募団体が事業内容を模造紙1枚に記載し、3分以内でプレゼンテーションを行った後、3分以内で質疑応答

2 一次判断



各運営委員が各応募事業について(a)、(b)、(c)の3段階の判断をする※(a)、(b)、(c)については下表参照

3 質疑



一次判断で(b)、(c)が多い事業への質疑応答

4 最終判断 助成事業・金額の決定



各運営委員が、助成対象として推薦する事業を選ぶ。結果、過半数(5票以上)の推薦を得た事業が助成先に決定

■「まちづくり一歩前へ」コース結果表(助成先7団体)

グループ名	一次判断			最終判断		
	(a) 活動企画内容を支持し、今回の助成が必要だと考える	(b) 活動内容についても少し話を聞き、今回の助成が必要か判断したい	(c) 社会的に意義がある活動だが、助成趣旨にはなじみにくいと考える	今回の助成対象として推薦する	申請額(万円)	助成額(万円)
1 北山の原生林を考える会	■■■■	■■■■■■■■		●●●●●●●●	26	26
2 高知県フェニックス親の会	■■■■■■■■■■	■		●●●●●●●●	30	30
3 菜園場商店街活性化委員会	■■	■■■■■■■■		●●●●●●●●	30	30
4 プロジェクトH	■■	■■■■■■■■		●●●●●	30	30
5 おびさんオーガニックマルシェ実行委員会		■■■■■■■■■■		●●●●●●	30	30
6 NPO GIFT		■■■■■	■■■■■	●	10	-
7 チャイルドラインこうち	■■■■■■■■■■			●●●●●●●●	30	30
8 高知ユネスコ	■■	■■■■■■■■		●●●●●●●	10.5	10.5
9 エコビレッジ・コストリカ共和村		■■■	■■■■■■■		30	-
助成額合計						186.5

B 「まちづくり一歩前へ」コース

■プレゼンテーション■



GROUP 1 北山の原生林を含む貴重な自然を未来に繋げるための学習の場にしよう

北山の原生林を考える会

北山では現在、竹が増えて自然を破壊している。活動内容は①大学の先生等しょうへいを招聘して、植生や地質の勉強会②現地で研修会③真竹を生育させない④環境の整備⑤地元の交流会⑥樹木のマップを作る⑦広報活動⑧定例会を行う。効果として①原生林の大切さを学習の場を通じて知ることができる②森の環境が保全される③山崩れがなくなり、きれいな水があふれてきて、私たちの生活、命が守られる、ということを期待する。



GROUP 2 障がい児(者)の訓練会の事を地域に広めよう

高知県フェニックス親の会

動作法中心に生活訓練、レクリエーションなどを取り入れ、子どもたちのコミュニケーションや運動能力、社会スキルなどの向上を図り、参加者同士で情報交換し、子どもたちにとってより良い環境づくりをめざし意識を高める。活動計画として、動作法を広めるための企画運営をし、動作法の体験をしてもらい、地域に広めていく。この体験活動を通して、子どもたちと関わりをもつことで障がい児(者)理解へとつなげ、療育キャンプのボランティア動員やトレーナー育成にも発展させたい。



GROUP 3 頑張ろう菜園場(あの時の賑わいを取り戻したい)

菜園場商店街活性化委員会

歴史的な背景をもつ商店街は、かつて映画館や魚市場があり、昭和60年度まで、買い物客の客足は、切れ目のないほどの賑わいがあった。今は郊外の大型店舗の進出等により衰退が続いている。昨年、第1回半平太まつりを行い、たくさんの方が来たので、さらに発展させたい。9月に第2回半平太まつりを行い、秋には歴史巡りや、地域マップを作成したい。そして、イベントの参加者にエンバサ券を再度発行して、繰り返しお客さんが菜園場に来てくれるような、まちづくりをめざしたい。

GROUP 4 好きな高知を勉強しなそう！

プロジェクトH



高知を熱く語る人材がまちのいたる所に存在し、また高知に來たいと思わせる高知づくりを高知市から発信すれば、経済効果が出ると考えている。そのために、月1回ペースで参加者を募り、高知を見直すための勉強会を実施。世界的に有名な写真家 HASH さんの講演会とワークショップを来年の3月に企画している。この講演会では、写真を通して高知の良さを再確認する機会をつかっていく。また、高知市の子どもたちを対象としたワークショップも企画している。

GROUP 5 みんなが「つながる」オーガニックなまちの日曜日

おびさんオーガニックマルシェ実行委員会



第2、第4日曜日に、おびさんロードで有機野菜の販売やそれを使った加工品などの生産直売の新しい日曜市をめざしている。地元の食材を実際に加工してくれる人が売ると、人と人をつなげる。現在、出店者数が少なかったり、道路申請のお金をたくさん支払ったり、雨が降ると中止になるのに使用料の支払いが必要だったり、たくさん問題がある。まちを通して、畑と人、大地と笑顔をつなぐということが一番のコンセプト。

GROUP 6 夢を咲かせる応援団

NPO GIFT



「アートの種を感謝で飛ばす」とは、「ありがとう」をテーマにしたポストカードを作り、大切な人へ送るという企画。このポストカードを路上詩人や、漫画家、イラストレーターなどの発表の場として活用してもらいたい。「オーガニックメイト」とは、オーガニック好きな仲間をつくるという企画。オーガニックの知識も入れながら、出会いも両方ふまえて、オーガニックのすばらしさを、周りの人たちや未来の子どもへ広げていく活動を考えている。

GROUP 7 チャイルドラインこうち「電話の受け手」ボランティア養成研修会

チャイルドラインこうち



2010年5月18日に開設をして現在、週1回火曜日の開設になっている。第2期の養成講座を開設してたくさんのボランティアを育て、開設を2回、3回とつなげていきたい。まだまだ広報活動が足りない。スタッフは、20代の大学生から80代の高齢の人もいるが、仲間づくりができていて、それぞれの地域で子どもと関わるときにいい状況もつづいている。今後、ニュースレターを作ったり、あとリーフレット、ポスター、カードなどを作って、販売したりしながら、利益も得て活動に回していきたい。

GROUP 8 ~ 貧困ってなんだろう? ~

高知ユネスコ



高知市にもホームレスがいること、生活保護の受給者数がどんどん増えていることを知り、貧困があるということ、私たち自身がそれを見て見ぬふりをするということに問題があるのではないかと考えた。子どもたちにも貧困について知ってもらうために貧困の勉強をしてもらいたい。貧困を察知し手を取りあう社会づくりを行い、心の貧困を防止すること。ホームレスなどへの襲撃事件を未然に防ぐこと。ホームレスや生活保護を受ける人などが差別されたり、被害者になってしまう前に実行できたらと考えている。

GROUP 9 「創ってみよう・エコビレッジデザイン! はじめの一步」体験学習と交流事業

エコビレッジ・コスタリカ共和村



エコビレッジとは、都会でも田舎でも、お互いが支え合う社会づくりと、環境に負荷の少ない暮らし方を追い求める人々がつくるコミュニティのこと。高知市でも互いが支え合う社会構造や、自然を身近に感じるコミュニティが崩壊しているように思う方もいるのではないだろうか。健康で幸せなライフスタイルを確保できるように、エコビレッジは今や世界中で意識的につくられている。エコビレッジは、私たちの時代における、さまざまな、そして、重要な問題を解決する1つの方法である。

C まちづくり大きな一歩 (ソフトからハードへ) コース

1 プレゼンテーション



各応募団体が事業内容を構造紙1枚に記載し、5分以内でプレゼンテーションを行った後、5分以内で質疑応答

2 一次判断



各運営委員が各応募事業について (a)、(b)、(c)の3段階の判断をする (a)、(b)、(c)については下表参照

3 質疑



一次判断で示された (b)、(c)について 質疑応答

4 第1次審査通過事業の決定



各運営委員が、助成対象として推薦するかどうかを判断する。運営委員より過半数(5票以上)の推薦を得て、第1次審査通過となり、計画具体化費用として上限10万円を交付。

まちづくり大きな一歩 (ソフトからハードへ) コース結果表

グループ名	一次判断			第1次審査通過事業の決定		
	(a) 活動企画内容を支持し、今回の助成が必要だと考える	(b) 活動内容についてもう少し話を聞き、今回の助成が必要か判断したい	(c) 社会的に意義がある活動だが、助成趣旨にはなじみにくく考える	第2次審査の対象として推薦する	申請額(万円)	10万円以内の計画具体化費用を受ける権利を獲得
1 百石町四丁目町内会	■	■■■■■	■■■	●●●●	268	-
2 蒔絵台町内会	■■■	■■■■■■■		●●●●●●●●	300	

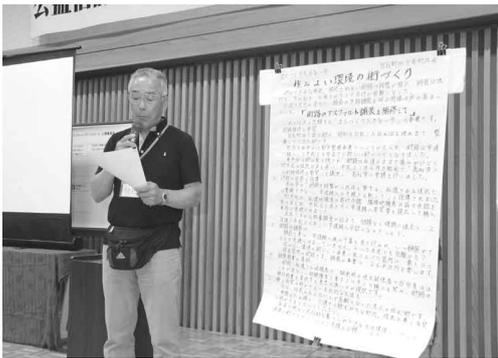
今後は第2次審査書類提出(12月15日)、現地調査・第2次公開審査会(1月下旬)を経て、助成決定の可否が決まります。

C まちづくり大きな一歩 (ソフトからハードへ) コース

プレゼンテーション

GROUP 1 住みよい環境の街づくり

百石町四丁目町内会



舗装道路の路盤が崩れてきて、路面は波打ち、穴も開き、水たまりもでき、歩行が非常に困難になっている。特に、夜道は足元が危ない。路面の舗装をなんとかして」という町民の叫びが現在あがってきている。百石町四丁目は、昭和40年ごろ、田んぼを埋め立てて、町の形が整備された。その後、町の西半分は春野運動公園へ抜ける土佐バイパスができ、百石町四丁目の西側半分は、きれいに整備されているが、東半分は、そのまま取り残されている。平成2年4月に町内会の総会で、東半分の私道を何とか舗装してもらおうと、高知市に要望書を提出した。市道編入の手続きを行い、現在進行はしているが、まだできてない。何とか早くしたいが、一番激しいところで、268万円かかる。百石町四丁目では、昨年6月に90歳になるお年寄りが、この路面で転倒し、骨折をして、現在、歩けなくなっている。みんなの生活、安全、安心を守り、何とか文化的な生活をしたい。

- Q 整備費用の概算は、どのようにして出したのか。
- A 業者に見積もりを取り、道路舗装にかかる費用がこの通りである。
- Q 公共事業で緊急性があるが、高知市の担当課とはどう話し合いをしてきたか。
- A 道路管理課と交渉して、道路の編入手続きを進めてきた。現在、測量調整に入る準備で業者が来ている。業者の話では年度内に仕上げたいが、全部できるか分からないと言われている。高知市に聞けば、年度内に測量調査が済んでも市議会にかけなければ、編入できない、編入後も市の予算の状態によって、すぐに着手できるか分からない、と言われた。

GROUP 2 子どもたちが安心して遊べる公園に！誇れるふるさとにしよう！

蒔絵台町内会



1号公園は、バスケットコートが2つあるが、地面が整備されていないこともあり、町内の子供たちが遊ぶことはほとんどない。このバスケットコートをもっと活用して、町内バスケット大会やバスケットボール教室、横浜・瀬戸地区のバスケット大会と広げていきたい。雨が降ったら水はけが悪く、水たまりになる。足跡がつくとしばらく足の形が抜けられない状態である。あと、すぐ横が道路なので、ボールが転がると道路に出て危なかったりする。このバスケットコートを整地し、横にフェンスをつくと、子供たちが安心して楽しく遊べる場、交流の場になると思う。また、3号公園には数年前、スチール製のフェンスを張ってもらったが、サッカーボールや野球ボールがそのフェンスに当たって、かなりの音が響いているので、近所に迷惑をかけることがあった。内側はポリエチレン製のフェンスを設置すると、防音効果もあり、さらに子供たちも楽しく遊べる場になると思う。

- Q その他の住民は何と言っていますか？
- A 最近は道路で遊ぶ子供たちが目立つ。公園でもっと遊んでほしいし、子供たちからもバスケットをしたいという声もあった。景観を汚すような高いネットは張りたくない。バスケットをするくらいなら、ネットも高くない方が良い。
- Q 将来的に子供たちが大きくなった時の維持管理は、どうするのか。
- A 町内の役員を中心にやっていく。役員は1年交替だが、役員以外のメンバーも協力してくれている。子供たちが大きくなった時に、住んでいる所で遊んだ思い出があれば、将来、蒔絵台に住むかもれない。

Q&A

二〇一〇年度 ソフトコース公開審査会を終えて

運営委員長 卯月盛夫
(早稲田大学教授)

公開審査会での質疑に対して、限られた時間の中で、どのように応答するかというのは、結構、難しいです。自分の思いを短く、ポイントうまく伝えられたところには、かなり票が入り、思いはあるのだけど、きちんと人に伝えられないことが多かったところは、選に漏れる結果となりました。後者の方は、そのグループ内で、きちんと議論されていたかどうかが問われていると思います。お一人、お一人、発言された方の思いは分かりますが、やりたいことが山ほどある中で、そのグループのメンバーで目標設定をし、一年間で何ができるのかということをもう少し詰めてもらいたいです。

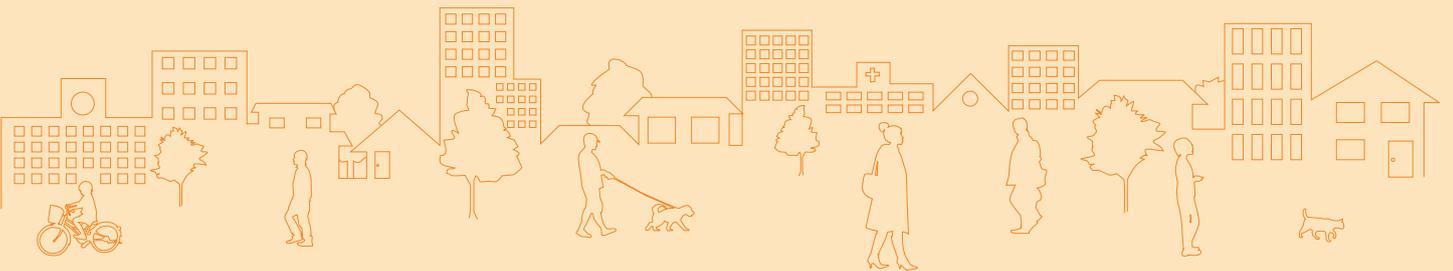
例えば、「プロジェクトH」、「NP O GIFT」、「エコレレッジ・コスタリカ共和村」は、あまりにもたくさんプロジェクトがあって、それが実施できたら本当にすばらしいと思います。審査会でのやりとりの中で、本当にどこまでできるのだろうか、逆に不安を感じてしまう部分もありました。目標は高くいいです。だけど、長期計画のうち、初年度は、ここまでやれるという、もう少しリアリティーのある話をしてほしいです。「高知をこんなふうにした」という思いを達成するために、初年度の目標をどこに設定するか、ということを引きちゃんと伝えることが大事だと思います。

それから、「高知ユネスコ」ですが、事業の中にフォトモザイクがあります。貧困を伝えるのなら、もっと他にもいろいろ手法があったのではないのでしょうか。議論した結果だったのかもしれないけれど、その議論は果たして十分だったのだろうか、



といったことが気になりました。助成先とならなかつたグループは、もう一度活動計画を見直して、来年度再チャレンジしてください。それから、助成が決定したグループも、一年後の成果発表で、「企画のほんの一部しかできませんでした」ということにならないよう、自分たちが書いた申請書の文章の重みを、今一度、よく考えてほしいと思います。

通常の審査の場合は、申請書だけで助成が決まってしまうと思います。ところが、その申請書もうまく書ける人、あまりうまく書けない人がいます。だから、僕はこういう公開の場で、直接、思いをもっている人とのやりとりがしたいんですね。ぜひ、そのこともご理解いただいで、申請書に書く文章を厳選してください。また、事業内容が明確になるまで、メンバーで十分に議論してから、審査に臨んでいただきたいと思います。



二〇一〇年度 ハードコース公開審査会を終えて

運営委員長 卯月盛夫
(早稲田大学教授)

今日は、皆さんの応募によって、行政が本来やらなければならないこと、どいつだった部分を、「高知市まちづくりファンド」でお手伝いすべきか、ということについて整理ができ、とてもよかつたと思います。当ファンドでのこれまでの助成先は、民間の土地と建物で、内装を改修したり、あるいは公共空間では市民が親しめる河川にしたりするといったものでした。しかし、今年度は全く違って、道路・公園の整備という完全な公共事業に関わる内容の応募でした。

このファンドによって実施する事業の意義というのは、高知市が最小限やらなければならない、あるいは緊急性があるというレベルのものではなく、地域コミュニティを強化するために、どれだけ公共ということだと思っています。「百石町四丁目町内会」については、残念な結果となりましたが、せつかくこの場にきていただいで、これだけの議論をしました。きちんと合意を得て申請書に書かれたことを僕は評価し、違う形で実現することができればと思っています。従って、運営委員の合意が得られれば、このように困っている地区に対して、最低限の安全対策を望む、といったことを文書に出したいですね。それでどうなるかは、高知市の判断となります。

そういった意味では、「蔭絵台町内会」の方は、公園の最小限の整備はできています。けれど、安全性だけではなく、それをもっと生かしてコミュニティを強化し、子どもたちにとっても、いい環境にしていこう

とを狙っています。単にフェンスを付ける、何か道具をつくるというのではなく、市民ならではの工夫、子どもたちのために、この地区の将来はこうしたいということを、二次審査に向けて考えてほしいと思います。また、町内会の役員の方だけではなくて、全員は無理かもしれないけれど、みんなできり替えるにはどうしたらいいかということ、ワークショップなどで議論し合ってほしいですね。バスケットも一つの案だと思いますが、ひよっとしたら他の方は、また別の案をもっているかもしれません。残された数カ月間で、ここまで幅を広げてみてください。コミュニティも環境も良さそうですから、若い方々のエネルギーをさらに生かしてほしいと思います。



2010年7月24日(土)開催の公益信託「高知市まちづくりファンド2009年度 最終発表会」には、応募団体、一般合わせて約65名が参加しました。



1 プレゼンテーション

助成先団体が事業の報告を模造紙1枚にまとめ、発表

- ソフトコース:3分間
- ハードコース:5分間

※今回はハードコースの発表はありませんでした。



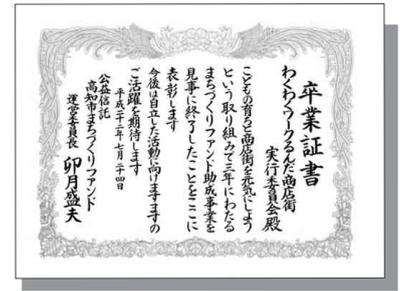
2 意見交流

運営委員や参加者からの感想、また質疑に対し、助成先団体が応答

卒業証書授与



市民団体が継続して行うまちづくり活動を支援する「まちづくり一歩前へ」コースは、同一の事業内容に対して3回まで助成を受けることができます。「わくわくワークるんだ商店街実行委員会」は、2007~2009年度と連続助成を受け、今年、公益信託高知市まちづくりファンドを卒業しました。今後の更なるご活躍を期待しています。



最終発表会

A 「まちづくりはじめの一歩」コース

● プレゼンテーション ●



GROUP 1 高知の伝統をもう一度見直し新商品開発を目指す

高知ラブ・らぶ・ラブズツキュン☆

朝倉周辺には、良心市がいっぱいあった。高知の魅力を知ってもらう情報ツールとして良心市マップを作成した。現段階では、良心市マップの作成だけに終わっており、当初めざしていた内容が実現できていない。今後は、マップの具現化を図り、良心市で売られている新鮮な野菜や特産品から新商品を開発する。また、ブログを利用して、情報発信をしていきたい。地域社会への関心をさらに高めることで、高知を担う人たちと協力が可能になると思う。

※事業内容縮小による返戻金……………48,914円

増田副運営委員長のコメント

実現できなかったことが、結果ではないと考えないと、物事は前に進まないのではないかな。できなかったことは、スタートである。学生という立場、非常に大変な時期、いろいろなことがあると思うが、やろうとしたことは大事に。

B 「まちづくり一歩前へ」コース

● プレゼンテーション ●



GROUP 1 障がい児(者)の訓練会の事を地域に広めよう

高知県フェニックス親の会

2009年8月16日から8月21日まで、療育キャンプ訓練を実施。活動を理解し、支援してくれる人の紹介により、ボランティアがたくさん集まった。ボランティアの人たちは、子どもたちにとって外せないコミュニケーションの存在であり、配給の準備をしてくれたり、子どもたちと一緒にゲームもしてくれたりした。アンケートでは、障がい児(者)と過ごす時間やコミュニケーションの機会が増えるほど、お互いの意思疎通ができ、学びや気づきがあったという感想があった。

VOICE

- ファンドを通じて輪が広がったことが嬉しい。
- 発表の様子も活動の様子も笑顔が多くステキだった。
- ボランティアと障がい児(者)の触れ合いは、両者にとって良い経験になったと思う。



GROUP 2 チャイルドラインこうち「電話の受け手」 ボランティア養成研修会

チャイルドラインこうち開設準備会

5月18日にチャイルドラインこうちを開設し、毎週火曜日に子どもたちの電話を、16時から21時まで聞いている。四国、中国地方の子どもたちからの電話もある。子どもたちの声を聞きながら私たちも日々勉強している。開設日を週1回でなくもう少し増やして、子どもたちからの声を聞きたい。これから第2期の養成講座も考えている。PR活動、高知ならではのグッズ等を作っていきながら、支援してくれるところを増やすように努力をしていきたい。

VOICE

子どもを助けるだけでなく、大人同士の仲間づくりも取り組んでいるのが素晴らしい。これから重要な役割を果たす活動。多くにPRして開設日が多くなることを願っている。心を通じ合わせることはすごく大切だと思う。たくさん声を聞いてほしい。



GROUP 3 感じるつながるあそびの時間 part4(高知城で忍者の巻、および親子版ワークショップ)

特定非営利活動法人 高知市こども劇場

忍者修行では、高知城で遊んだことで、高知城を身近に感じ、思い出になったと思う。子どもたちの感想にも「楽しかった」「おもしろかった」「またやりたい」とたくさん書いてあった。住んでいるまちで楽しく遊んだ体験を通して、そのまちが好きになることにつながると思う。大人が対象の遊びの関わり方についてのワークショップと親子ワークショップには、たくさん参加してくれた。大人たちがたくさん参加することによって、子どもたちの活動への理解と関心をもってもらえた。

VOICE

高知城で遊んだ子どもは、大人になっても高知城を大切にできると思う。遊びを通して子どもたちにアピールすることは、とても大切なことだと思う。地域への愛着心の基礎になる活動である。



GROUP 4 わくわくワークるんだ商店街

わくわくワークるんだ商店街実行委員会

今年11月に、全国生涯学習大会の一環として委託事業形式で開催することが決定した。最初は、実行委員が商店街とNPOだったのに対して、現在では、商店街、大人、学生、小学校の生徒と徐々にメンバーが増えていった。業種としては、18業種から28業種に増え、参加人数も、当初100人だったが、現在150~160人になっている。2009年度では、るんだ通貨を使用できる店を増やした。場所の拡大として、ひろめ市場の前でやらせていただき、業種は、商店街内が7店、その他が21店、協力してもらっている。

VOICE

事業が大きくなっているのは、参加している子どもたち、お店を出している大人、学生たちも楽しんで、この活動をやれているからだと思う。楽しい活動。他の商店街地域でも活動が立ち上げれば良いですね！



GROUP 5 「できる」喜びが未来につながる ~ 聴覚障害児の社会参加を目指して ~

特定非営利活動法人 高知県生涯学習支援センター「エンゼルハンド」

7月に七夕交流会を開催した。地域の人たちにも声をかけて、一緒にうちわを作ったり短冊を作ったりと、交流を楽しんだ。地域の人たちに好評だった。2009年11月の早瀬憲太郎氏の講演の後、エンゼルハンドの活動を知ってもらうことができ、問い合わせや声をかけてくれることが増えた。新たにパンフレットやポスターを作ったので、県下の聴覚障害に関係のある団体や小・中学校を中心に配布していきたい。今後子どもたちが中心となり主催できる作品展を開催し、子どもたちが頑張れるまちづくりをめざしたい。

VOICE

聴覚障害の子どもたちへの理解と言葉の数が広がれば素晴らしいと思う。いろいろと活動を深めているなと思った。これから活動を広めていくか、理解者を増やし、地域に広げていってほしい。

二〇〇九年度 ソフトコース最終発表会を終えて

運営委員長 卯月盛夫
(早稲田大学教授)

高知は気候だけじゃなくて人間があつたかい。高知のまちづくりは、あつたかいないかって、いつも思います。今日も本当にたくさんの方の新たな感動をいただきましたが、中でも、子どもの相談を受けている「チャイルドライン」こうち開設準備会」のスタッフの方の生声には、言葉にできないくらい感動しました。高知のまちづくりファンドは、子どもを育てているんですよ。子どもの環境を育てようとする大人の人次の温かいまなざしを感じます。「駄目よ」と言わないで、子どもが話し続けることをずっと受け入れ続ける。でも、子どもを支える大人たちというのは一面的な見方で、むしろ、子どもが大人を支えている部分もあるかもしれない。大人が子どもから何かを得るということも相当あるわけで、これはきつと、僕ら大人の社会を大きく変える子どものメッセージ、まさにまちづくりの原点になるのではないのでしょうか。まちづくりとは、子どもが話すこと。それがびりては地域社会にも影響していく、というのが、今日の発表を聞いての僕の結論です。

「ここで一つ提案したいのですが、高知市まちづくりファンド」も、残りの資金が少なくなつてしまいました。これから公益信託を増やしていく時に、もちろん税金も少しは考慮しておくんですが、やはり高知市、高知県を含めてみんなで支え合つていかなければいけないと思うんですね。高知はかなり子ども関連の市民活動が多いので、「高知市まちづくりファンド」の別部門として、「子どもまちづくりファンド」というのを、冠基金として設けてみたらどうでしょうか。子どものことに関係している企業、例えば、塾や教科書関連の会社、子ども用品やゲームソフトのメーカーなど、子どもの存在によって成り立っているような企業から少し



ずつ寄付をしてもらつて。そして、その会社の名前を付けて、「高知市子どもまちづくりファンド」という名前を使って、どんどん宣伝する。これから子どもまちづくりをやりたいという方々は、「高知市まちづくりファンド」に応募するんだけど、我々は従来のものと分けて、その小さな部門で審査をする。アメリカでは、企業の名前を出す事に積極的に冠基金が多くあります。そういう形で寄付を集めることとまぐ運動できる素晴らしい展開になるのではないかと、という感想をもちました。

運営委員紹介



運営委員長
卯月 盛夫
(早稲田大学教授)

今回は応募件数が14件と増え、また3部門にそれぞれ若い方々が申請されていたので、活動の広がりを感しました。しかしその反面、審査が少し厳しなつたかもしれません。また公開審査会には、宇多津町や横浜市からも視察者が来られ、市民間の横の交流が行われたことがとてもよかったと思います。



副運営委員長
増田 和剛
(高知中・高等学校教諭)

まちづくりをする人の共通点を子どものブロックあそびに例えてみると、まちづくりに対する思いをどのよう伝えて、活動にしていきたいのか。この方向性は、ブロックを積み上げていく行為に、どこ似ています。そして、積み上げた一つの形は違えど、思いの形は一緒なのです。



運営委員
産田 節雄
(元高知市都市整備部長)

まちづくりのきっかけは何でしょうか？まちをもう少し良くしたいなとか、こんなところ嫌だなと思うことから始まりますよね。いわば「問題の発見から」ということでしょうか。今回も多くの応募がありましたが、いろいろの視点があるものだと感心させられた2日間でした。



運営委員
川崎 敬子
(グラフィックデザイナー)

情熱をもって走り始めた団体、着々と事業を進めている団体。そんないつものファントの姿に加えて、公共事業ともとれる内容を申請した団体がありました。高知市の財政のきびさを、ここでも感じることに...。財政難であっても早「取り組まねばならない事業、そして今を切り抜けるだけでなく将来のビジョンをもち、知恵を出し合うことが大切だと思いました。



運営委員
四宮 成晴
(四宮計画事務所)

多彩な団体が申し込むようになってきた「まちづくりファンド」。創設にあつたの原点と、応募団体の熱い思いを照らし合わせての選考という重責がつかつてきました。選考に漏れた団体の活動に接する機会がある度、これによつたのだらうかと悩むことときり残りの任期に耐えられるのだからと不安に駆られるが、みなさんに自分を磨いてもらっている自分。がんばらなくては。



運営委員
新藤 こずえ
(高知女子大学助教)

今回は、まちづくりの楽しさだけでなく、地域が抱える課題の切実さも伝わってきました。楽しい活動を通してまちづくりに参画する市民のすそ野を広げること、子どもや高齢者の切実な問題に対応する市民活動を支援すること、いずれもまちづくりファンドの重要な役割だと感じました。



運営委員
堀 洋子
(社)高知県建築士会)

ハードコース応募、蒔絵台町内会が一次審査を通過しました。新しく開発された団地内のあまり利用されない公園を若い観世代が中心になり再生させる取り組みです。二次審査に向け、単なる改修工事ではなく、団地開発企業、行政、町内の協働でのまちづくりとして、バージョンアップした計画を楽しみにしています。



運営委員
宮地 貴嗣
(ラ・ヴィータ 宮地電機機)

多くの団体が高知市をよいまちにしよう活動していることが伝わってきました。自己満足ではなく、市民から見て活動に意義があるかが助成のポイントではないでしょうか。残念ながら助成にならなかつた団体もありましたが、自分たちのめざすまちづくりにさらに進めてほしいです。



運営委員
森本 智香
(えほんの店「ココ・サン」)

このファンドのキーワードは、「育つ」ということだと思います。公開審査は応募者も運営委員も共に育つ場。「うまくいったことも失敗したことも、すべてまちづくりへの情熱の糧」というとらえ方をもつことが一番大切だと思います。...という私も、このファンドに育てられている一人です。



運営委員
山崎 三郎
(高知県自然観察指導員)

公開審査は、お互いの思いを伝え合えてよかったと思います。ただ、目的を実現するために、この事業で何を現実させたいのかを明確に絞って取り組みること、仮に不採択になつても2年でも3年でも実践しながら訴え続ける、という情熱をもって応募してきてほしいと思いました。

公益信託「高知市まちづくりファンド」とは

公益信託 高知市まちづくりファンドは、市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例に基づき、まちづくり活動団体への助成を目的に、高知市が四国銀行に3,000万円を出捐(しゅつえん)して創設しました。助成先は公開審査会で決定し、透明性の確保とともに、市民同士の交流や、まちづくりの学びの場となることを目的としています。多くの人にまちづくりに興味をもってもらい、まちづくりに参加するきっかけとなるような運営をめざしています。

「まちづくりはじめての一步」コース
 まちづくりへの参加の第一歩を踏み出そうとしている市民団体、あるいは活動を始めているが、まだ定着していない市民団体の活動を支援します。

助成金額 上限5万円

審査方法 書類審査で助成先を決定します。助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます。

「まちづくり一歩前へ」コース
 市民団体が継続して行うまちづくり活動を支援しています。

助成金額 活動事業費の $\frac{2}{3}$ 以内で、上限30万円

審査方法 公開審査会において、活動の内容について発表をしていただき、公開審査で助成先を決定します。

お問い合わせ先: 高知市市民活動サポートセンター TEL 088-820-1540

「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース
 高知を住みよいまち、豊かな地域社会にしていけるために行うまちづくり整備事業を支援します。

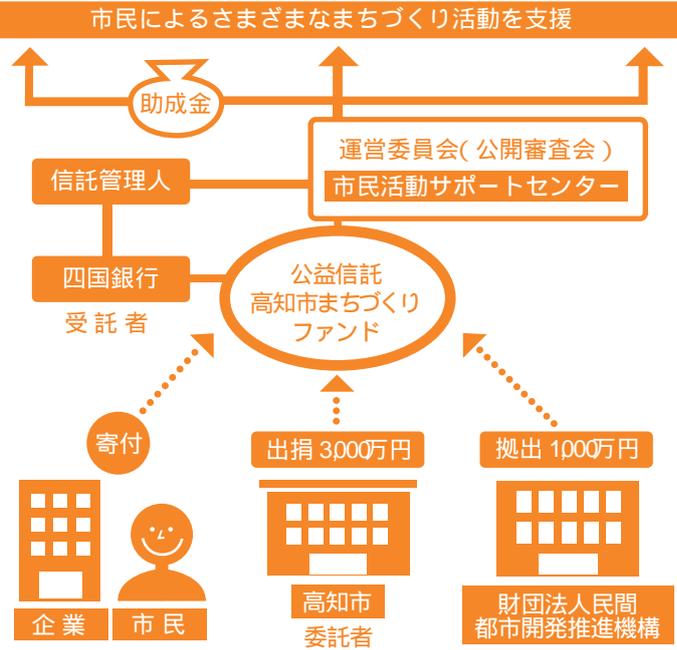
助成金額 上限300万円(助成率100%)

審査方法 第1次公開審査会において、整備の内容について発表をしていただきます。審査通過団体には、計画を具体化するための費用として10万円を限度に助成。第2次審査書類提出、現地調査後、第2次公開審査会において発表をしていただき、1件程度、助成先を決定します。

お問い合わせ先: 株式会社四国銀行 お客さまサポート 信託担当 TEL 088-871-2226

四国銀行コメント 株式会社四国銀行
 お客さまサポート 信託担当

四国銀行では、高知市民の自主的なまちづくり活動を支援していくという信託設定の趣旨に沿って助成事業を行います。受託者としてファンドの管理・運営を行うことにより、まちづくり活動の一端を担い、私たちみんなの大切な高知市をより住みやすいまち、豊かな地域社会にしていけるためのお手伝いができるよう努めていきます。



私たちもお手伝いします。

高知市市民活動サポートセンターコメント

当サポートセンターでは、まちづくりファンドの申請に関する相談や、公開審査会等の運営のお手伝いをしています。皆さまのまちづくりに対する想いを実現できるよう支援していきたいと考えています。まちづくりファンドの申請に関する事、また、まちづくり活動や市民活動に関する事等、いつでもお気軽にご相談ください。

まちづくりファンドは皆様がまちづくり活動を支援する仕組みです。

まちづくりファンドの創設にあたり、高知市から出捐(しゅつえん)された3,000万円は、毎年取り崩しながら助成していくことになります。少しでも永くまちづくりファンドが市民のまちづくり活動に生かされるように、多くの皆さまのご寄付をお願い致します。

寄付に関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。

株式会社 四国銀行
 お客さまサポート部 信託担当
 〒780-8605 高知市南はりまや町1丁目1-1
 電話: 088-871-2226(直通)

高知市市民活動サポートセンター

市民に利用していただき、市民活動の輪を広げようと、1999年4月に高知市が設置した施設です。運営を特定非営利活動法人NPO高知市民会議が担っており、ボランティアや市民活動に関する様々な相談や情報の提供、活動に必要な機器の利用や会議室の貸し出しにも応じています。仲間を広げたり活動のお知らせをする掲示板や団体が利用できるメールボックスもあります。活動の参考になる講座等も開催していますので、お気軽にご活用ください。

今後のまちづくりファンド(予定)

審査会 発表会は、どなたでも参加することができます。まちづくり活動に関心のある方の交流の場として、お気軽にご参加ください。場所は、高知市たかじょう庁舎6階大会議室を予定しております。

「まちづくりはじめての一步」「まちづくり一歩前へ」コース		「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース	
2010年度事業			
中間発表会	2011年 1月 29日(土)	第2次審査書類提出期限	2010年 12月 15日(水)
最終活動報告書の提出期限	7月 15日(金)	現地調査	2011年 1月下旬
最終発表会	7月 30日(土)	第2次公開審査会	1月 30日(日)

発行 高知市市民活動サポートセンター

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎 2階
 TEL: 088-820-1540 FAX: 088-820-1665
 E-mail: npokoch@sim.inkajgi.com 【URL】 http://www.kochi-saposen.net/